

日本リスク研究学会 第22回年次大会
企画セッション「災害リスクガバナンス」
(独)防災科学技術研究所 災害リスク情報プラットフォームプロジェクト
(2008-2012)

- 1) 自主防災活動を通じたリスクガバナンスの高度化:
愛知県における実証実験の取り組み
- 2) 住民参加による地域コミュニティの被害想定と防災力評価手法
- 3) リスク情報プラットフォームを活用した防災マップづくり
- 4) 防災ラジオドラマ作りを通じたリスクガバナンスの創発
- 5) 学校と地域が連携した防災訓練を通じた地域ガバナンスの
再編・強化: 長岡市北条地区の事例
- 6) 防災訓練計画策定過程におけるRCの有効性の有効性:
長岡市山古志地区の事例

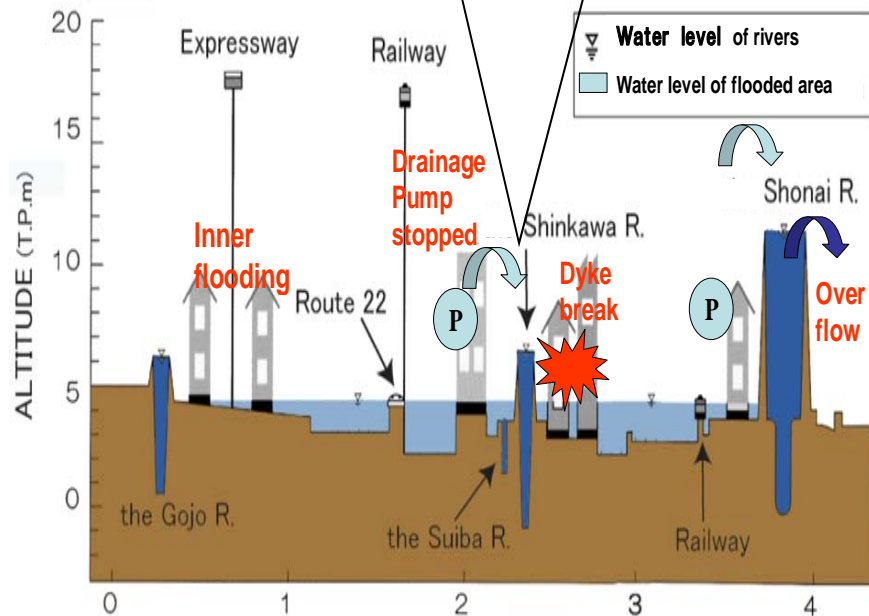
「災害リスク情報プラットフォームの構築」から学んだこと 地域防災力の再編を目指して (1)

大都市の集積した社会基盤は大規模で複雑・相互依存性を高めてきているが、何故、想定外災害に脆弱となったのか？

Urban infrastructure: too complex and vulnerable to both “Low Probability but High Consequence” and “Pervasive Disasters”
Ex. Tokai Flood 2000

長期に堤防やダムなど洪水防止施設整備をしてきたのに、どうしてこんなに大きな被害にみまわれるのか？

Both residents and regulatory authorities: “There cannot be any catastrophic flood in our river basin since we have made a series of dams and reinforced banks since the last flooding” Ex. Niigata/Fukui Flood 2004

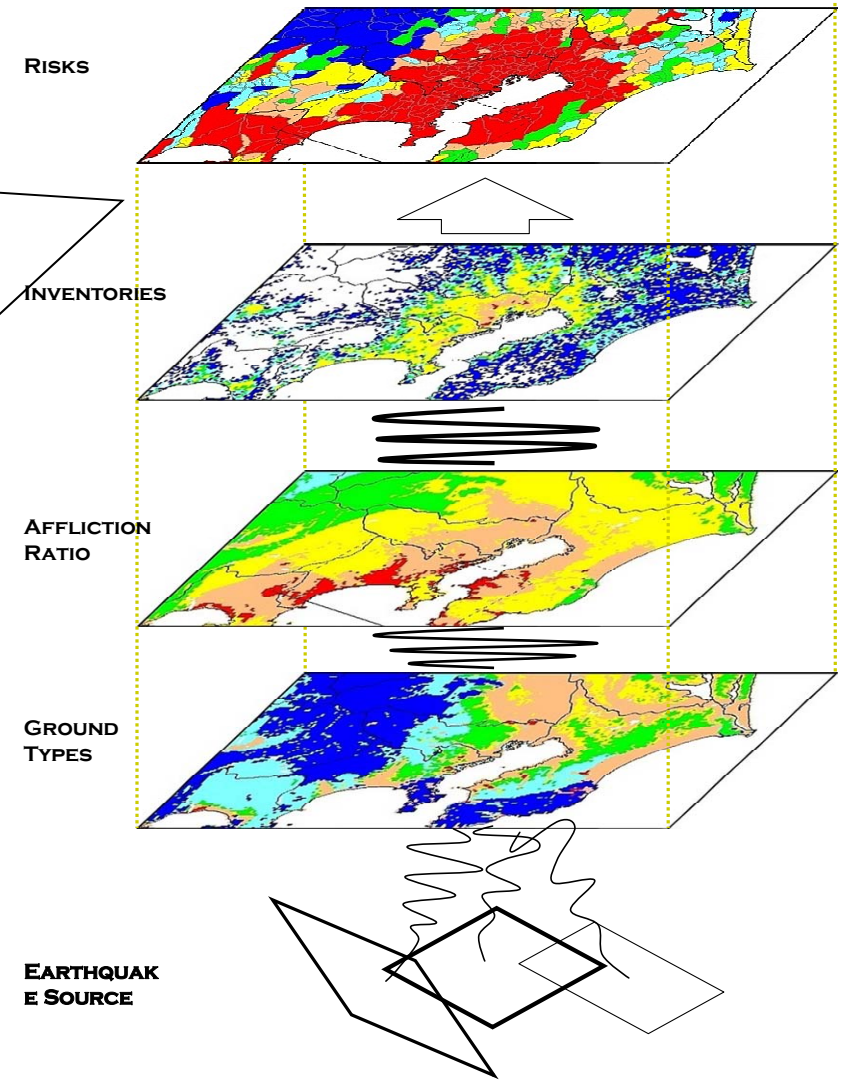


「災害リスク情報プラットフォームの構築」から学んだことの例 地域防災力の再編を目指して (2)

誰もが自分自身や家族へのリスクの大きさを知りたいのだが？

地震情報や水害ハザードマップでは平均的でマクロな被害の状況しかわからないし、具体的な対策・費用や効果(効用)の程度も知りたい!!!

Everybody want to know their own risk, not hazard. But, " from hazard to risk" will need a deliberative communication among experts and stakeholders



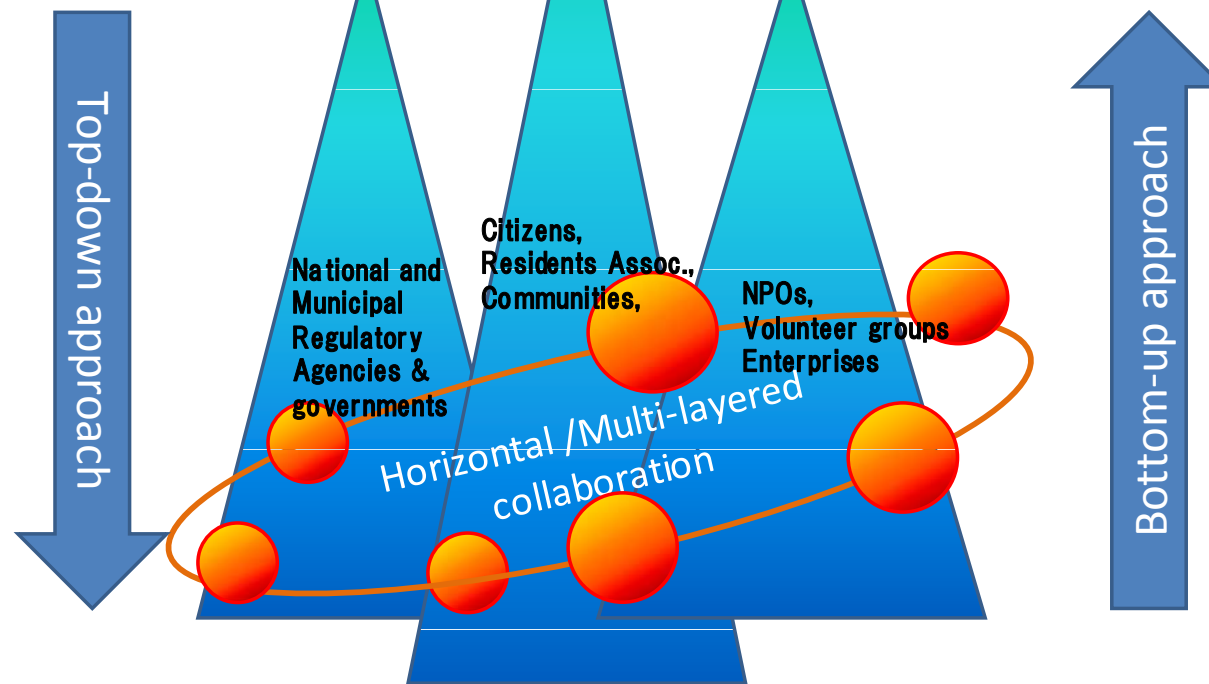
防災研のプロジェクトの考え方

地域防災力の再編を目指した「災害リスクガバナンス」

(日本リスク研究学会誌 V.17-3, 13-23, 2008)

水平的・多層的な社会的な関係性(ネットワーク)をベースにした
災害リスクの協働的かつ自律的なリスクマネジメント

A collaborative risk management
of disaster risks through social network based on "horizontal and multi-layered
collaboration among stakeholders"



災害リスクガバナンスの「適切さ」のための要件

Requirements for better risk governance

- **リスク情報の専門知、経験値、地域知 等の横断的な共有**

Sharing risk information in terms of three types of knowledge:

- i) scientific expertise, ii) local/folk knowledge,
- iii) experiential/ethnographical knowledge

- **リスク情報付き選択と意思決定のための自律的/創発的な
リスクコミュニケーションの工夫**

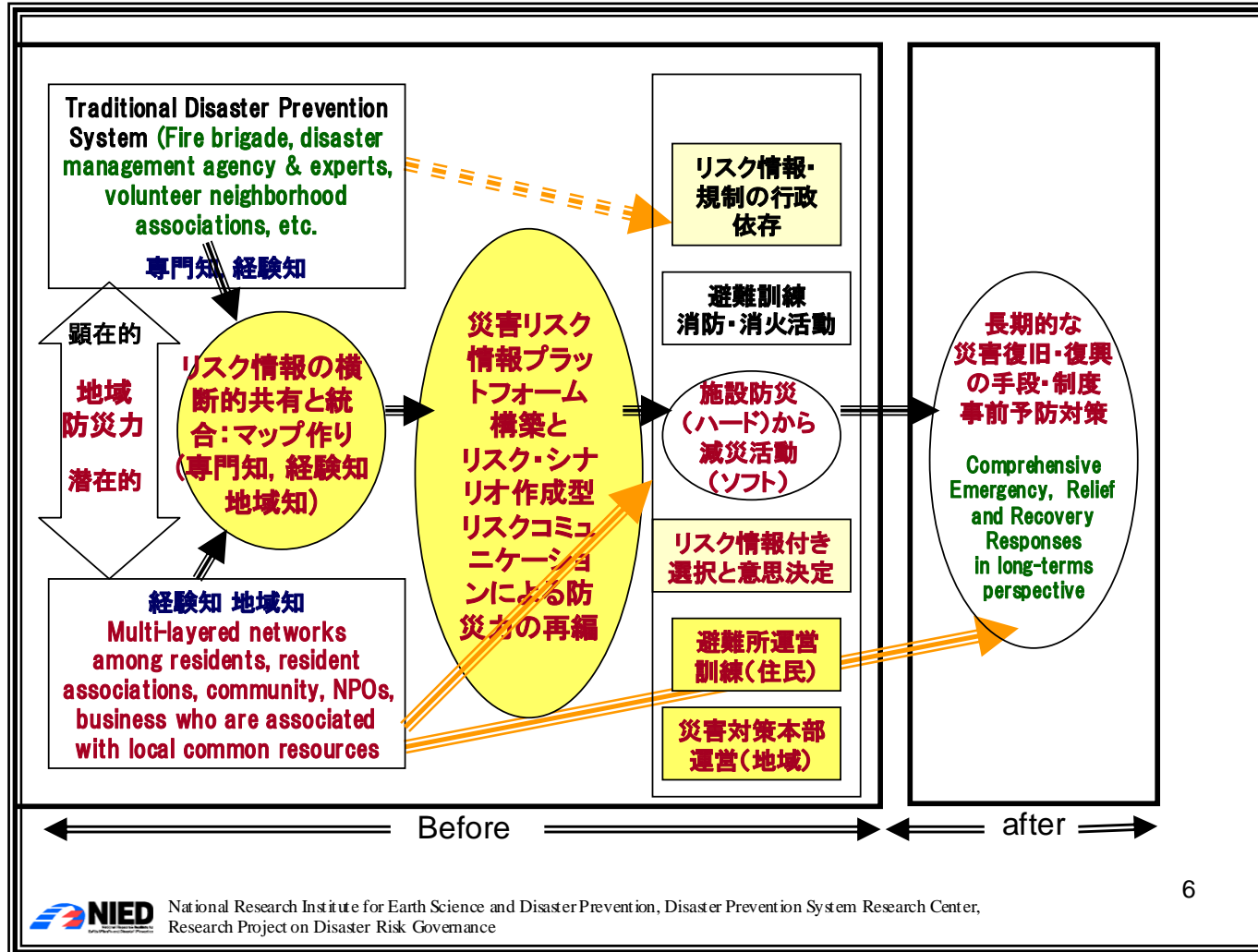
Customizing 'risk communication' with a better deliberation of the shared risk information toward the informed choice of disaster prevention options

- **地域社会の多様な関係者間に社会関係や私的インセンティブを活用した協働の関係性(ネットワーキング)の構築**

Creating an informal setup of collaboration among the stakeholders based on the multi-layered societal networking with emphasis of non-regulatory and market incentives.

災害リスクガバナンス手法の学際的な枠組み

The Interdisciplinary framework of disaster risk governance in multi-layered collaboration and communication



日本リスク研究学会 第22回年次大会
企画セッション「災害リスクガバナンス」
(独)防災科学技術研究所 災害リスク情報プラットフォームプロジェクト
(2008-2012)

- 1) 自主防災活動を通じたリスクガバナンスの高度化:
愛知県における実証実験の取り組み
- 2) 住民参加による地域コミュニティの被害想定と防災力評価手法
- 3) リスク情報プラットフォームを活用した防災マップづくり
- 4) 防災ラジオドラマ作りを通じたリスクガバナンスの創発
- 5) 学校と地域が連携した防災訓練を通じた地域ガバナンスの
再編・強化: 長岡市北条地区の事例
- 6) 防災訓練計画策定過程におけるRCの有効性の有効性:
長岡市山古志地区の事例